



憧れを現実に

「バンド活動を通して音楽を広めること」。それは、僕が憧れる一つの目標です。中学生の時、父からあるロックバンドのCDをもらいました。そのロックバンドは、X JAPANでした。もらったCDの中に『紅』という曲があり、その曲のサビを聴くと過去に聴いたことがある曲だと気付きました。どこで聴いたかは覚えていなくても、しっかりと耳に残っていました。気にしたことがない曲でも「この曲知ってる」と思ってもらえるのは、とても素敵なことだと思いました。そして、彼らのように記憶に残る曲を作って演奏したいと思っ



横見町 萩野将規さん

たのが、バンドを始めようとしたきっかけです。もともとピアノは少し弾けました。また、X JAPANのリーダーYOSHIIKIさんのように演奏したいと思いい、ドラムも練習するようになりました。

高校生になり、バンドメンバーを集め、現在は4人で日々練習しています。皆で練習してきた曲をライブで思い切り演奏するときほど、楽しい時間はありません。これから先、さまざまな場でバンドメンバーと一緒に演奏して、記憶に残る曲を届けていきたいと思っています。そして、「バンド」という一つの楽しみをもっと多くの方に知ってもらい、音楽を広めていきたいです。

次は、長生町の走川秀司さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌大会選

市長賞

吉形 和恵

魚鱈まで透けるシロウオ持ち
呉れしビニール袋に春は跳ねたり

大会長賞

徳川 明美

春耕の田へ真つ直ぐに飛び下りる鳥一羽の生のきらめき

文化振興課長賞

勢井 恒子

組板の窪みに憶う歲月よ共に
老いたり傷跡愛し

中学生短歌ボスト賞

新野中学校・福井中学校

大下 和

五月には修学旅行で沖繩へ戦
争ダメだと学ぶためにも

中島 真歩

らしくない「ありがとう」の
一言を笑わず聞いてよ！母の
日だもん

山本 瑠那

今年から受験生になったのに
なぜか認めぬ私の心

尾田 陽輝
道ばたで見つけた花は福寿草
きつと幸運訪れて来る

西村 麻那

鯉のぼり鳥といつしよに泳いでる
大きな空が海に見え出す

陶久 ゆら

潮風が貴女の髪をなびかせて
まるで絵のよう見惚れてしま
う

北原 琢磨

黄緑の山の間日光のあと追
うように飛ぶツバメあり

島 日偉

春の朝目覚しかけて六時半目
覚しかけても朝練遅刻

俳句

阿南市俳句連合会選

久米 浩一

玄関を開け放ち待つ燕かな

篠原悠紀子

更衣憂きことひとつ払いけり

池田 福美

母の日の母の白髪を染めにけり

松田 桜子

用水の水がうがうと夏来る

高尾 房枝

若葉風受けて勢出す野良仕事

大西 裕子
黄砂降る阿讃の山はモノト
ン

清原 栄子

網伝い伸び行くキュウリ花盛
ん

鈴木 順子

初夏やフレンチ袖の腕あらわ
葉桜の上の青空ゴルフ球

森 泰子

動乱の風に運ばれ黄砂かな

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

野口 吾朗

どきどきをわくわくにする甘
い声

佐藤つたえ

気分しだいで甘い辛いになる
料理

西田 修身

美味しいと言わぬ夫と五十年

臣守 愛香

ためらいを少し残して衣の整
理

滝川 太郎

初恋の人も来ているセニア会